

「ナポレオン」通信

第二〇九号 平成十六年四月二十日

〒九三三〇八〇四 高岡市問屋町四十

有限会社 沖商店

〒933-0804

TEL 0766-251-550

FAX 0766-251-5500

E-mail okashoten@poem.ocn.ne.jp

いつもお世話になりありがとうございます。

『人は何の為にこの世の中へ生まれて来たのでしょうか』『人生の本来の目的は何なのでしょう』『そんな人生の根本問題を皆様と一緒に考えたい』『皆様の心に一石を投じて、意見を頂く機会になることを願って本通信をお届けしている次第です。どうか忌憚の無いご意見をお寄せくださいます様お願い申し上げます。』

一 イラクの日本人誘拐事件に思う

今月の八日、カタールの衛星テレビ「アル・ジャジーラ」が、イラクで三人の日本人が「サラヤ・ムジャヒディン（戦士隊）」と名乗るグループに身柄を拘束されたと報道しました。

三人の様子を映したテープ、三人のパスポート、そして「三日以内に自衛隊をひきあげないと三人を殺す」という脅迫文が届けられ、日本ではそれらが新聞・ラジオなどで何度も報道されました。

これに対する日本政府の反応・対策方針と親族の様子も報道され、日本中の話題となりました。幸いにも、ちょうど二週間後の十五日に解放され、健康状態も良く、心配した割には無事で何よりでした。そして今回の事件は、今日の日本人に多くのことを教へ示唆してくれました。

その最も重大だと思われることは『自己責任』ということだと思えます。

事件報道直後に肉親の方々の言われた言葉・とられた行動、解放直後の本人たちの口から出た言葉は、あまりにも我が身勝手・自己中心・非常識・愚かではなかったでしょうか。

すなわち、長い時間と多大な労力をかけて一国の方針として決定し、莫大な費用をかけて派遣した自衛隊を、どんなに自分の子供が大事だからと言って、「子供の命のため自衛隊を引揚げてくれ」と訴え、さらに周囲の人まで動かし署名運動をして迫るといのは、行基を逸してはいませんか、申し上げたい。

しかも、頼まれもしないのに自己満足だけのために

行つてはいけないという所へ敢て行くことを容認し命の危険に晒されるようになってから、「人命は何よりも重し」と訴える図々しさ。

また、解放直後の本人たちへのインタビューで「この運動を今後も続けますか」との問いに「続けたいです。どうしてもイラク人を嫌いになれないのです」と答えていましたが、自分が拉致されたことの重大さが認識されていません。また、「どうしても〇〇を好きになれないのです」という言い方はありますが、「どうしても〇〇を嫌いなれないのです」という言い方は日本語としてしっくりしないと思います。

また、フリーライターの男性は「私にはこれしかないのですから（続けるしかない）」と言っています。だが、本当にそうなら「私は命をかけていますから、私ができる限り構わないでください」といつてく

今ほどになると「あんなこと言わなければ良かった」と思っておられるかも知れませんが、いままら取り消しはできません。全国民に何遍も報道されたことですから。

でも今回の事件は、今日の日本人に『自己責任』ということ、改めて考えさせてくれた良い機会であったと私は思っています。

自分のためにそうなったのに自分のことは棚に上げて、国（行政機関）のせいにする、足を出して責任を取らない、辞任することが責任を取ることと考えている、そんな日本人の間違った考え方を、今回の事件は「当事者たちばかりではないでしょう、あなたも少なからず同調したでしょう」と神が示し教えてくれたのだと私は思っています。

二 ナポレオンの手

ナポレオン・ボナパルト。「余の辞書に不可能という言葉はない」と言ったといわれているフランスの英雄。彼はどのようにしてそんなに強かったのか。並外れた天才的戦術のひらめきと、人を動かす巧さだったと高校の西洋史の授業で教わりました。

「天才的戦術のひらめき」については、少なからず先天的な要素があり、他人が真似をしようにもできませんが、「人を動かす巧さ」は大変勉強になります。彼は、少ない軍勢で大軍を破り、不可能だと思われる行軍もやり遂げ勝利しました。

最も有名なのは、「アルプス越え」でしょう。古今東西を問わず戦いの巧い将は、人が不可能だと思っていることをやり、相手の度肝を抜き、油断

につけ込んで勝利しています。二・三例を挙げます。「アルプス越え」は、ローマとカルタゴが雌雄を競っていた時代、カルタゴの將軍ハンニバルが実行してこの時の戦いに勝っています。

中国では、韓信の「背水の陣」、諸葛孔明の「死せる孔明生ける仲達を走らす」というのがあります。日本では、源義経の「ひよどり越えのさかおとし」が有名でしょう。

このようにナポレオンも天才的な戦術を考え出しますが、これを実際に行うには兵士を自分の思うままに動かさなければなりません。

戦いにおいては、しばしば「偽走」といって、わざと負けたような顔をして逃げ走り、調子に乗って追い駆けて来る敵を挟み撃ちにして殲滅する、という戦術が用いられました。この時、はじめの逃げ走る時点では、かなりの犠牲がでますので誰もやりたがりません。

また、一拠点を死守することにより、そこに敵を引付け、大局において勝利する、という戦術も用いられますが、これこそ生還の可能性が少ないのですから誰もが嫌がります。

そこでナポレオンの用いた手は、褒称と補償です。ナポレオンは、各部隊に報告専門役を設けました。報告専門役は戦うより、戦いの様子をつぶさに報告するのが役目です。そして戦いの様子をつぶさに報告しました。特にその戦いで目覚ましい働きをした兵士の様子については生半可ではなく、一挙一動詳しく、正確に報告させました。

ナポレオンは、それを凡て記憶したといえます。戦後の表彰式においては、その「目覚ましい働きをした兵士」を特に最前列に例せるのではなく、平素通りに整列させます。そして、その「目覚ましい働きをした兵士」の位置を、○列の△番目というように正確に報告させました。

そうしておいて、表彰式当日の謁見の際、隊列の片端から全軍を謁見すべく、歩き出したナポレオンは、報告のあった「目覚ましい働きをした兵士」の列に来ると、その列に割って入り当人の処まで行って声をかけます。

「〇〇君、君の今回の戦いにおける活躍は、私の処へ詳しく報告されているよ。君はあの時あんな状態よくこのように行動できたね。今後の手本とするためにその術を披露してくれ給え。」てなことを言ってお本人を褒め称えます。精々褒めて（おだてて）お

いて最後に「君を××長に任ずる。また一層頑張つて呉れ給え」と言つて元へ戻り、全軍の謁見に戻ります。

そして、次の「目覚ましい働きをした兵士」の列の前に来ると、前回同様、列に割って入り、当人を名指し褒め称えます。そしてこれを繰り返します。

これにより本人はもちろん、隣・近所に立ち並ぶ同僚は、いやがうえにも競争心を煽られ、命を掛けて働くようになったということです。

また、戦死した「目覚ましい働きをした兵士」には、全軍の面前で本人の功績を大いに称えその名譽を記録し、遺族には厚い補償を与えました。

この結果ナポレオンの軍隊は、質的な面において極めて優秀であったのです。

ナポレオンは戦術に長けていただけでなく、兵士を奮い立たせる術にも長けていたのです。

三 努力なくして進歩無し

私は一昨年三月三十一日で満六十歳になった時、それまでボールが飛ばなくなつて一時敬遠していたゴルフに、少し力を入れようと思いました。それは、シニアの部になれば飛距離が無くても或る程度楽しくラウンドできないかと思つたからです。それで練習場へも足を向けるように努力しました。するとどうでしょう、ボールが思いの外飛ばふようになつたではありませんか。それまでナイスショットをしても絶対パーオンできない距離しか飛ばなかつたのが、なんとかパーオンできる距離まで飛ばふやありませんか。それで、一昨年は久しぶりに楽しい（思いで）ゴルフができました。

ところが、昨年は「やればできるのだ」という思ひだけで満足・言い訳にしてあまり練習をしませんでした。ぶつつけ本番ばかりでスコアはまともならず、ゴルフプレーも面白がありませんでした。それで、今年は三月・四月の学生服の販売で忙しい暇を偷んで練習しました。すると飛ばふやありませんか。飛ばふばスコアも自然にまともになり、ゴルフが楽しくなります。

自分では「一日たったこれだけぐらゐの練習、何の効果（影響）があるのか」と思いますが、さにあらず、「努力なくして進歩無し、努力するだけ効果あり」です。

有限会社 沖商店

代表取締役 沖昌弘

個人メール E-mail okashoten@poem.ocn.ne.jp

お問い合わせの意を伝える個人メールは、こちらからどうぞ